

2026 年度 公益財団法人田口福寿会事業計画

2025 年は、戦後 80 年、そして昭和の元号で 100 年に当たる節目の年であり、これからの新しい日本を考える年でもありました。こうした視点からこの先の日本の姿を直視いたしますと、我が国の生産年齢人口は、今後 20 年で 1,500 万人弱、2 割以上が減少すると見込まれています。今や、我が国は「人材希少社会」に入っていると言えます。年齢や障害の有無、その他の差異にかかわらず、人を財産として尊重する「人財尊重社会」を築いていく必要があります。

こうした中、現状は、ウクライナやパレスチナでの軍事衝突の収束は見通せず、アメリカのトランプ大統領による関税を武器とした外交戦略の展開による影響とともに、国内ではコメの高騰をはじめとする物価上昇が続いており、当財団が支援する多くの人たちにも大きなダメージを与えています。

当財団は、昭和 42 年に設立されて以来、基本理念であります相互扶助の精神に基づき、福祉、教育、芸術文化、スポーツなどの各分野にわたって、人を育てるための助成を中心に活動を続けてまいりました。

とりわけ 2018 年以降、給付型の奨学金の充実に力を入れており、奨学金の対象者の拡大、支給金額の増額を継続的に行ってまいりましたし、挑戦する若者の背中を押す事業や、スポーツや文化の基盤強化につながる事業への助成にも取り組んでいます。

今年度は、田口福寿会奨学金の支給額の増額、AFS 奨学金の増額を行うとともに、2 年目となります田口文庫事業での電子図書の贈呈などを計画しており、引き続き相互扶助の精神に基づいて、その他の各種助成事業も強化する予定です。
その総事業費は 11 億 6,250 万円であり、前年度予算額に比べ 1 億 9,242 万円の減額となっております。内訳は次のとおりです。

事業	内 容		予 算 額
1. 育英奨学事業	1. 田口育英金の支給	岐阜県内に在住し、高校への進学、就学を望みながら、主に経済的理由のために進学、就学が困難なひとり親家庭（両親ともいない家庭を含む。）の生徒及び児童養護施設等に入所もしくは里親等に委託中の生徒に対して育英金を支給する。	5 億 7,132 万円
	2. AFS 奨学金の支給	岐阜県内に在住し、かつ県下の高校・高専に在学する AFS の年間留学生に対して奨学金を支給する。	500 万円

1. 育英奨学事業	3. 田口福寿会奨学金の支給及び奨学生交流会等の開催	当財団が指定する岐阜県内の公立高等学校の卒業生で、国・公立大学へ進学をし、ひとり親家庭等のため、学費の支弁が困難な学生に対して奨学金を支給する。また奨学生交流会やガイダンス等を開催する。	1 億 4,218 万円
	4. 田口福寿会夢奨学金の支給及び奨学生交流会等の開催	岐阜県内の児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設又は自立援助ホームに入所中またはこれらを退所した者もしくは里親又はファミリーホームへ委託中または委託を解除された者で、国内の大学等へ進学をし、保護者等からの経済的支援が見込まれず、学費の支弁が困難な学生に対して奨学金を支給する。また奨学生交流会やガイダンス等を開催する。	4,690 万円
2. 助 成 事 業	1. 福祉・教育・芸術文化・スポーツ及び地域社会の発展振興につながる事業に対する助成	福祉・教育・芸術文化・スポーツなどの各分野において公益性が高い事業及び地域社会の発展振興に効果的に貢献できる事業を行っている岐阜県内の団体等または県内で事業を行っている団体等に対して助成する。	3 億 2,610 万円
	2. 田口文庫の寄贈	岐阜県下の公立小学校ならびに特別支援学校に対し、学校教育の充実と学習環境の向上を目的として、学校が希望する図書を寄贈する。 (寄贈校は輪番方式で選定する) また、岐阜県下の全公立小学校ならびに特別支援学校に電子図書 (school e-Library) を寄贈する。	7,100 万円
事 業 費 合 計			11 億 6,250 万円